



# 東京都心部の水辺空間をたずねて

西田 龍人

近年、まちづくりでは水辺が注目されるようになった。人と水辺の距離が近いまちには開放感や心地よさがあり、全国にこうした空間が増えていくことは嬉しく思う。

昨年、東京都心部の水辺空間を訪れる機会があった。今回はその中から、二つの素敵な空間を紹介したい。

## 再開発ビルの水辺空間

### ウォーターズ竹芝

JR浜松町駅から徒歩しておよそ七分、港区竹芝の再開発ビル「ウォーターズ竹芝」は汐留川に面した場所にある。商業施設、高級ホテル、オフィス、劇団四季の劇場がタワー棟、シアター棟の二つの建物に入居しており、その二棟の間に、川に面した芝生広場がある。「プラザ」と名付けられたこの広場は、正面に浜離宮の緑が見える開放的な空間だ。船着場もあり、浅草、両国、お台場などへの定期船が発着している。その隣には干潟が整備された。ここ竹芝は、東京都の絶滅危惧種も生息する豊かな水辺であり、教育機関とも連携しながら東京湾再生のモデルケースとなるような環境づくりが進められる予定だ。干潟は月に一度のオ



ウォーターズ竹芝の親水空間「プラザ」

ープンデイに一般開放されている。

私が訪れた日は天気も良く、プラザの周辺はテイクアウトした食事を楽しむ人や音楽イベントに訪れた人たちが賑わっていた。船着場には時々、大きな汽笛を響かせて船がやってくる。水辺ならではの他には無い光景だ。

## 水辺、高架下、公園をあわせて活用

### 北十間川かまちづくり

墨田区の北十間川周辺では、川だけ

でなく周辺にある公園、高架下も活用したまちづくりが進められている。

北十間川は浅草と東京スカイツリーという二つの観光拠点の中間に位置する。観光回遊性の向上を目指し、二〇一九年に墨田区が北十間川とその周辺に親水テラス、公園、道路を一体的に整備した。川に並行した鉄道高架橋を所有する東武鉄道も連携し、高架下に商業施設「東京ミズマチ」を開業。また、隅田川を渡る鉄道橋の隣に人道橋「すみだリバーウォーク」を建設し、浅草から東京スカイツリーが最短ルートで結ばれた。

浅草から東京スカイツリーまでを歩いてみた。浅草駅を出ると、すみだリバーウォークで隅田川を渡る。鉄道橋のすぐ隣を歩くことができ、子ども達に大人気だった。

渡った先には、北十間川沿いに親水テラスが続く。高架下の東京ミズマチには飲食店のほか、インテリアシヨップやボルダリングカフェ、宿泊施設まで、多彩な店舗が入居する。店舗は両側から出入りできる構造で、飲食店はテラス上にも席を設けていた。

隣接する隅田公園には、イベントに使える広場がある。この広場と高架下店舗の間は歩行者専用道路で、両者の間をスムーズに行き来できる。この日は広場に移動販売車が出店し、高架下の店舗同様、こちらにも賑わっていた。景色を楽しみ、店舗に立ち寄りなが

ら歩いていると、およそ二十分で東京スカイツリーに到着。電車であればわずか二分の距離だが、テラス、公園、道路が歩きやすく整備されており、歩いて楽しい空間だと感じた。

## まちに心地よい水辺空間を！

東京都心部の水辺空間を訪れて感じたのは、水辺空間がまちに潤いをもたらしているということだ。無機質になりがちな都心部において、水辺空間はまさにオアシスであり、多くの人を惹きつける魅力がある。

今後、全国の都心部でもまちに潤いを与える、心地よい水辺空間が増えることを期待したい。



北十間川の親水テラスと東京ミズマチ